

丹後農業実践型学舎研修情報（8月）

（研修概要）

【6期生】

- ほ場の耕耘、肥料散布、かん水等を通じて各種機械の使用方法を習得した。
- 甘藷、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン等各種野菜の栽培管理をした。
- カボチャを出荷した。
- 「野菜の生育と品質2」「野菜の栽培と環境管理1」「土壌肥料（現地調査）」「京都府 GAP セミナー（府立農芸高等学校）」を受講した。



キャベツ 播種



ニンジン 播種



カボチャ 出荷



京都府 GAP セミナー



野菜の栽培と環境管理 1



土壌肥料（現地調査）

研修を通じての学舎生の所感（抜粋）

キャベツやブロッコリーの育苗において発芽率の悪さや徒長苗が目立った。また、端にある苗箱の端の苗が乾燥で萎れていることもしばしばあり、水の管理は難しく感じた。良い苗を作るために勉強していきたい。

育苗中のキャベツの苗にコナガの幼虫が発生していたので防除のための殺虫剤散布を行った。コナガは運動性が高いことなどの特徴も聞き、実物を確認した。今後は自身でも早期発見、種の特定ができるようにし、早期防除に努めていきたい。

ニンジンを播種した直後に散布しなければならないカイタック乳剤やワンクロス WG 等の除草剤散布が遅れてしまい、それらを使用できなかったので次回播種時は播種直後に必ず散布する。

太陽熱土壌消毒中の畝間の除草を行った。定植前にきちんと除草をしておくことで、その後の作業が簡便になっていくと思われる。

作物の基本的な性質を理解して、栽培から収穫、保存調整まで適切な方法で行う必要があると思った。

GAP セミナーを受講して、製造業や工業関係では、あたりまえに行われている内容だと思った。

GAP は、農業由来の環境破壊と健康対策について考えられるリスクに対して対策を講じ、農業の適性化を図るものだとわかった。

カボチャの出荷先を市場出荷以外に直売所出荷や規格外品の加工出荷をすることで生産物を無駄なく出荷することができた。

作物の生育状況を観察して、天気予報などを考慮し今後の作業工程を決めていかなければならない。生育の視点や病害虫の発見のために、観察するポイントをしっかりと学ばなければならないと思った。